

研究・調査報告書

報告書番号 236	担当 滋賀医科大学社会医学講座福祉保健医学部門
題名 (原題/訳)	
<p>Socioeconomic inequalities in alcohol related cancer mortality among men: to what extent do they differ between Western European populations? 男性のアルコール関連癌死亡率における社会経済学的不均衡：西欧諸国間でどの程度異なるか？</p>	
執筆者	
<p>Menvielle G, Kunst AE, Stirbu I, Borrell C, Bopp M, Regidor E, Heine Strand B, Deboosere P, Lundberg O, Leclerc A, Costa G, Chastang JF, Esnaola S, Martikainen P, Mackenbach JP.</p>	
掲載誌 (番号又は発行年月日)	
<p>Int J Cancer. 2007 Aug 1;121(3):649-55.</p>	
キーワード	
<p>男性、ヨーロッパ、教育、アルコール関連癌、死亡率</p>	
<p>要 旨 目的： 男性におけるアルコール関連癌死亡率（上部気道消化管(UADT)(口腔、咽頭、喉頭、食道)および肝)における社会経済学的不均衡があるのか、また、その関与の割合は西欧諸国間で異なるのかを明らかにする。</p> <p>方法： 死因を含む縦断的死亡率データセットを用いた。データはヨーロッパの13の集団（マドリード、バスク地方、バルセロナ、タリン、スイス（ドイツ、ラテン地区）、フランス、ベルギー（ワロン、フレミッシュ地区、ブリュッセル）、ノルウェー、スウェーデン、フィンランド）における30-74歳男性において1990年代に収集された。社会経済学的状態は、追跡開始時の国勢調査で申告された教育レベルを用いた。ポワソン回帰分析を用い、不均衡に関する相対的指標（不均衡の相対指標(RII)）および絶対的指標（死亡率差）を検討した。</p> <p>結果： UADT癌については、RIIはフランス、スイス、タリンで3.5であり、肝癌についてはマドリード、フランス、タリンで最も高かった（約2.5）。アルコール関連癌の死亡率への社会経済学的不均衡の寄与はフランスとスペイン集団で29-36%、ベルギーと北欧諸国で5-15%であった。肝とUADTの癌死亡率差の間に相関はなく、UADT癌で見られたパターンは喫煙の影響だけではないことが確認された。</p> <p>結論： 飲酒は、フランス、スペイン、スイスにおける男性の癌死亡率の社会経済学的不均衡に影響し、北欧諸国やベルギーでは影響しないことが示唆された。</p>	